

特別展

Treasures
from
Ninnaji
Temple
and
Omuro

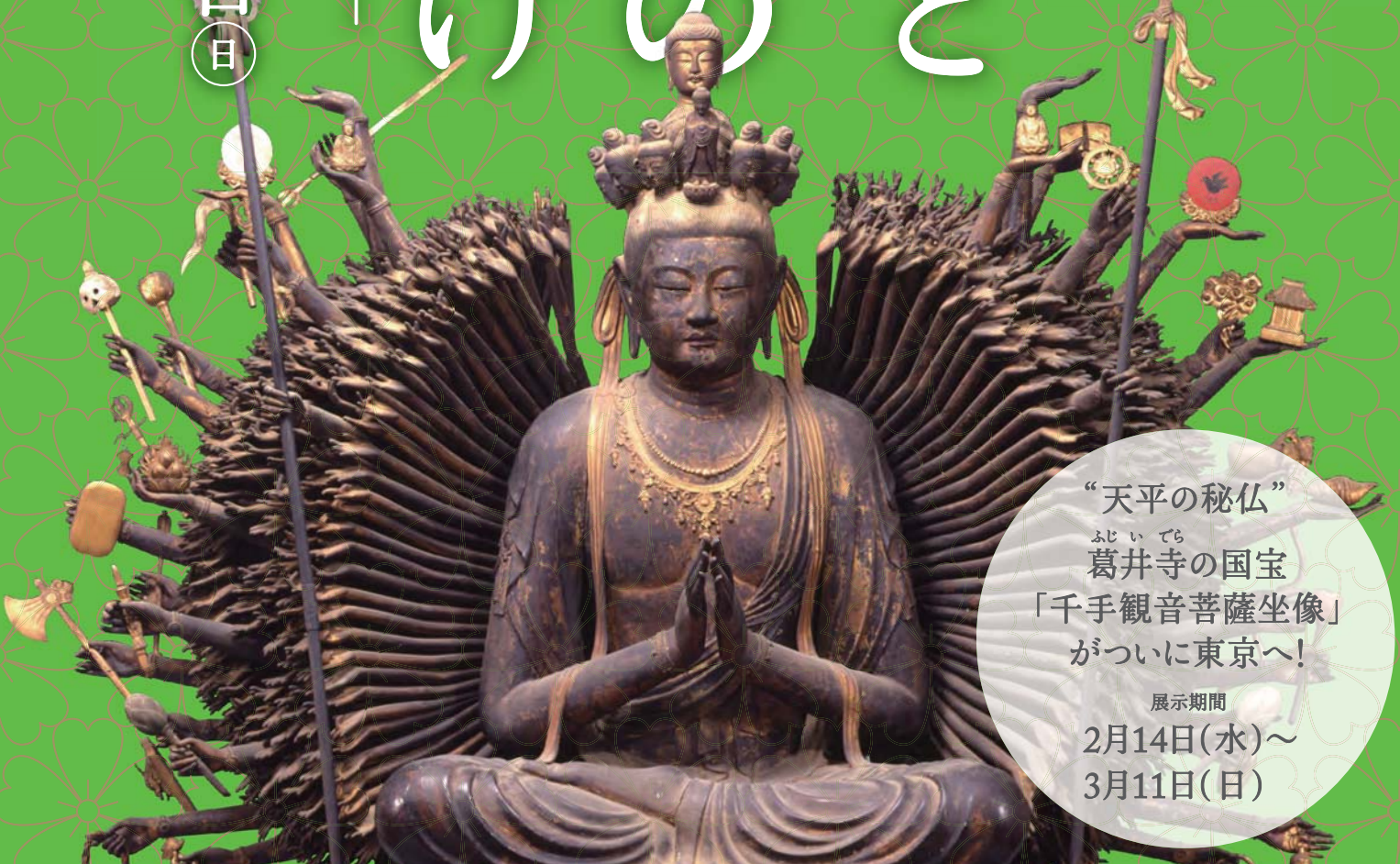
仁御室 と派と みほけの

—天平と真言密教の名宝—

2018年

1月16日(火) — 3月11日(日)

東京国立博物館 平成館
TOKYO NATIONAL MUSEUM HEISEIKAN (UENO PARK) 正堂4階



“天平の秘仏”

ふいでら
葛井寺の国宝

「千手観音菩薩坐像」
がついに東京へ!

展示期間

2月14日(水)~
3月11日(日)

国宝 千手観音菩薩坐像
奈良時代・八世紀 大阪・葛井寺蔵

天平時代の最も完成された様式美を余すところなく伝える像。頭上に十二面をいただき、四十の大手と千一の小手をそなえ、手のひらにはそれぞれに一眼をもつ、十二面千手千眼観音である。体部は脱活乾漆造という興福寺の阿修羅像にも用いられた技法でつくられており、官営工房の技術の粋を伝えている。造像当時より千の手を持つ千手観音像は、本像のほかには二例しか現存しない。

葛井寺の秘仏、国宝。

千の手、千の眼、十一の顔を持つ、
現存最古の千手観音像。

仁和寺と御室派

「御室」という言葉をご存知でしょうか。遅咲きで有名な御室桜については耳にされたことがあるかもしれませんが。もともと、「御室」とは、仁和寺を建立した宇多法皇のためにもうけられた室（僧房、僧侶の住居）を指します。宇多は息子の醍醐天皇に天皇位を譲った後、出家して法皇となり、真言寺院としての仁和寺の整備に力を入れました。鎌倉時代以降は、この「御室」が仁和寺そのものを示す呼称として用いられるようになっていきます。その「御室」を冠した御室派とは、現在、仁和寺を総本山として全国約七九〇箇寺で形成される真言宗の一派のことです。実は御室派そのものの成立は比較的新しく、第二次世界大戦後のことでした。御室派は、戦前の真言宗十派による合同真言宗が解体された後、近世以前から仁和寺の末寺だった寺院を集めて形成されたもので、歴史的、伝統的な仁和寺とその末寺の姿をよく受け継いでいるものと言えるでしょう。

仁和寺創建当時の本尊。
定印^{じょういん}を結ぶ、国宝の平安仏。
優美な和様彫刻のはじまり。

開催趣旨

御室桜で知られる仁和寺は、光孝天皇が仁和二年（八八六）に建立を発願し、次代の宇多天皇が仁和四年（八八八）に完成させた真言密教の寺院です。歴代天皇の厚い帰依を受けたことから、すぐれた絵画、書跡、彫刻、工芸品が伝わります。創建時の本尊である阿弥陀如来坐像（国宝）は、当時もつとめすぐれた工房の作品です。また、高倉天皇宸翰消息（国宝）は皇室との深いかかわりを物語るものです。本展覧会では、それら仁和寺に伝わる名品を一堂に紹介します。また、仁和寺を総本山とする御室派寺院は全国に約七九〇箇所あり、すぐれた仏像も少なくありません。天平彫刻の名品として知られる葛井寺の千手観音菩薩坐像（国宝）が、江戸時代の出開帳以来初めて東京で公開されるほか、普段目にするのができない多くの秘仏が見られる貴重な機会になります。仁和寺では現在、観音堂の解体修理が行われています。観音堂は修業の場であるため非公開ですが、本展覧会では三体の安置仏を展示するとともに、堂内の壁画を高精細画像によって再現して、一般にはふれることのできない堂内の厳かな空気を体感していただきます。

国宝 阿弥陀如来坐像
平安時代・仁和四年（八八八） 京都・仁和寺蔵

宇多天皇が父である光孝天皇の菩提を弔うために、仁和4年（888）に供養した仁和寺創建時の本尊。腹前で両手を重ね合わせる定印^{じょういん}という手の形式は、制作年のはっきりしている日本の阿弥陀如来像のなかでは最も古い。平安時代中頃における阿弥陀信仰を考える上でも、この頃の造形を考える上でも、大変重要な像である。

展覧会構成

第一章 御室仁和寺の歴史

仁和寺は、光孝天皇(830-887)の発願により造営がはじまり、仁和4年(888)、宇多天皇(867-931)により創建されました。宇多天皇は讓位後に出家し、延喜4年(904)、仁和寺に御室(僧坊)を造営、隠棲します。その後、仁和寺は、宇多法皇の法流を受け継ぐべく歴代門主は親王・法親王が相承し、御願寺(皇室の私寺)として歴代天皇より崇敬されてきました。「御室」と称されてきた仁和寺の歴史を如実に物語るのが、国宝「高倉天皇宸翰消息」をはじめとする仁和寺に伝わる天皇直筆の書(宸翰)の数々です。その宸翰を中心に、歴代の肖像画や工芸品、古文書等により仁和寺の歴史をご覧ください。

第二章 修法の世界

密教の教えでは、修行者が仏と一体の境地に達する時、仏の知恵を悟り、その力(加持力)によって人々を救うと説かれています。その具体的なかたちとして、仏の力をもって現実世界に様々な影響を与える「修法」という儀式があります。天変地異をはじめとした災いを除き、幸福をもたらすため、我が国では特に修法の力が密教に期待され、平安時代には国家的な行事として行われました。仁和寺は弘法大師空海を宗祖と仰ぎ、また創建以来皇室とのゆかりが深いことから、修法に関わる多くの名宝が伝えられています。本章では天皇の病氣平癒や皇子の誕生を願う孔雀経法の本尊である「孔雀明王像」や、仏舎利を納める容器である「金銅火焰宝珠形舍利塔」など、修法の場で用いられた仏画や法具を展観します。

第三章 御室の宝蔵

承平元年(931)、仁和寺の御室にて宇多法皇が崩御するに際して、膨大な数の御物が仁和寺の管理下に移されます。これにより仁和寺の宝蔵が成立しました。以後、仁和寺の宝蔵は、御願寺(皇室の私寺)の宝蔵として厳重に管理され、火災や戦火に遭いながらも宝物は護られてきました。その中には国宝「医心方」など、中国・日本の医学史上において重要な史料も含まれています。また、仁和寺を総本山とする真言宗御室派の関係寺院にも、さまざまな寺宝が伝来しています。これまでまとめて紹介される機会がなかった仁和寺と御室派関係寺院に伝わる絵画・書跡・工芸の名品をご堪能いただけます。

第四章 仁和寺の江戸再興と観音堂

創建以降、広大な寺域を誇った仁和寺の伽藍も、京都を戦場とした応仁の乱のさなかの応仁2年(1468)、ことごとく焼失してしまいます。その後、仁和寺の南に位置する双ヶ丘の真光院で法脈は受け継がれますが、現在のような伽藍に再興されたのは江戸時代初期、覚深法親王(1588-1648)の頃でした。寛永11年(1634)、覚深法親王は將軍徳川家光に働きかけ、仁和寺再興の援助を受けることに成功します。さらに、天皇の御所であった紫宸殿、清涼殿、常御殿も移築され、堂舎に改築されました。皇室ゆかりの仁和寺ならではの特別な配慮と言えるでしょう。本章では江戸時代初期に再建された諸堂のうち、普段は非公開の観音堂の様相を33体の安置仏と壁画の高精細画像で再現するとともに、仁和寺の江戸再興にかかわる諸作を展観します。

第五章 御室派のみほとけ

仁和寺は、今から1100年あまり前の平安時代に開創されましたが、それ以後の長い歴史のなかで、仁和寺と御室派諸寺院とはさまざまな縁が取り結ばれてきました。現在、御室派寺院は約790箇寺を数えますが、その縁には今となっては忘れられてしまったような両者の歴史がしっかりと刻みこまれています。本展覧会では、普段は公開されていない秘仏を含めて、全国各地の御室派寺院から貴重な仏像が数多く集まります。御室派の広がりによって実現した名品の饗宴をご堪能ください。

秘仏
本尊



重要文化財 如意輪観音坐像
平安時代・十世紀 兵庫・神呪寺蔵

兵庫県西宮市のシンボル、六甲山系の甲山の中腹に所在する神呪寺の秘仏本尊で、古くより信仰を集めてきた。木造で、細身の表現が特徴。制作は平安時代半ばにさかのぼる。如意輪観音像の古い例として重要な像である。毎年五月十八日にのみ開扉される秘仏である。



国宝 宝相華迦陵頻伽時絵冊子箱
平安時代・十世紀 京都・仁和寺蔵

三十帖冊子を納める箱で、蓋の中央にその旨が記される。麻布を漆で固める乾漆で作られていると考えられ、金銀の粉を淡く蒔いた地に研出蒔絵で文様が表わされている。人面の鳥である迦陵頻伽や宝相華、飛雲や鳥などの配置は左右相称を基本としながらも流動的で華やかさに満ち、平安時代蒔絵の代表作として、ことに名高い。



国宝 三十帖冊子
空海ほか筆 平安時代・九世紀 三十帖 京都・仁和寺蔵

弘法大師・空海(774-835)が、中国(唐)で書写して持ち帰った經典・儀軌類で、真言密教の秘書として大切に伝えられてきたもの。三十帖あることからこの名で呼ばれる。空海の自筆部分が十数帖確認され、空海と同じく平安時代の能書「三筆」の一人と称される橘逸勢の書も含まれると考えられており、書道史上も重要なものである。

重要文化財 僧形八幡神影向図
鎌倉時代・十三世紀 京都・仁和寺蔵

ひざまずく二人の男臣の前に、僧侶の姿をした八幡の神が姿を現わした様子を描く画像。画面のなかばには人形のようなものが表わされており、これは神の影とも、神そのものの姿とも言われている。現在、仁和寺境内北東に位置する九所明神にも、八幡神は第一座として祀られている。



秘仏
本尊



国宝 薬師如来坐像
円勢・長円作
平安時代・康和五年(二〇三) 京都・仁和寺蔵

十二世紀後半から十二世紀前半にかけて活躍をした、当時を代表する仏師円勢とその子長円の作。仁和寺北院の本尊で、大御室・性信親王の念持仏であった薬師如来像が火災によりほとんど焼失してしまった後、すぐさま造り直されたのが本像である。白檀をきわめて精緻に彫刻し、木地に直接截金技法とよばれる金箔で細やかな文様をほどこした大変美しい作品。



重要文化財 金銅火焰宝珠形舍利塔
鎌倉時代・十三世紀 京都・仁和寺蔵

仏舍利を納める容器で、銅板を鍛造して形作られた宝珠が蓮華台座上に安置される。ふっくらとした宝珠は台座に比べて大振りして、比較的小さな火焰も相まって、雄大な造形を見せている。台座の蓮弁は薄く繊細な作りで、八角形の相座やその脚は宝相華唐草文で裝飾される。宝珠には「鋳屋長兵衛」の銘文があり、鋳師の名を刻んだ最古例としても貴重。

撮影 武藤茂樹



巻6 部分

彦火々出見尊絵 狩野種泰筆
江戸時代・十七世紀 福井・明通寺

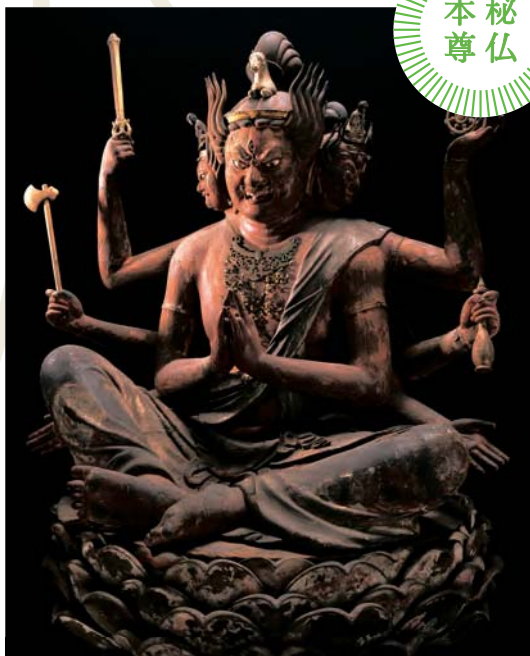
海幸彦と山幸彦の古代神話に取材した絵巻。原本は平安時代末、後白河院の周辺で制作され、後に若狭(福井県)の古刹・明通寺に伝えられたと考えられている。本作は江戸時代初め、小浜藩主酒井忠勝が絵巻を召し上げた際に狩野派の絵師に命じて作らせた副本。物語の舞台である龍宮の様子などが活き活きと描かれている。



国宝 十一面観音菩薩立像
平安時代・八〜九世紀 大阪・道明寺蔵



古代氏族の土師氏の氏寺として創建された道明寺の本尊。頭上にいたただく仏面から体側に降ろした右手の指先、台座の蓮肉に至るまで一材から彫り出す一木彫像である。胸飾や瓔珞などの装身具もきわめて精緻に刻出しており、平安初期一木彫像のなかでも傑出した作例の一つとして知られている。



重要文化財 馬頭観音菩薩坐像
鎌倉時代・十三世紀 福井・中山寺蔵

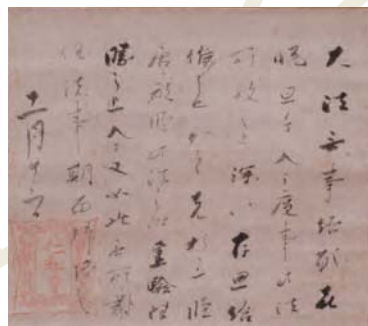
若狭から丹後、現在の福井県南西部から京都府北部にかけての日本海沿海部には、興味深いことに馬頭観音を本尊とする寺院が集中している。中山寺もその一つで、本像は鎌倉時代の名品として名高い。秘仏として伝えられ、鮮やかな彩色だけではなく、光背や台座も当初のものが残されている貴重な作例。



写真提供 文化庁

重要文化財 五智如来坐像
平安時代・十二世紀 大阪・金剛寺蔵

大阪府河内長野市の古刹、天野山金剛寺の五仏堂に安置される。大日如来を中尊として、四方に阿闍・宝生・阿弥陀・不空成就の四如来が配され、平安時代の数少ない五智如来像の一つである。当寺は鳥羽天皇皇女の八条院の帰依を得て真言僧阿観が建立した寺で、草創期の治承四年(1180)頃の作とみられる。



国宝 高倉天皇宸翰消息
高倉天皇筆 平安時代・治承二年(1178)
京都・仁和寺蔵

高倉天皇(1161-81)が、仁和寺第六世の守覚法親王(1150-1202)に宛てた消息。治承二年(1178)十月、中宮平徳子の御産のために、守覚法親王によって孔雀経法が行なわれた。十一月十二日に無事に皇子が生まれ、その喜びから高倉天皇が筆をとった。その宸翰に対する守覚法親王の返書も附として一緒に伝わっている。このときの孔雀経法の「次第」も仁和寺に残されており(重要文化財「密要鈔」のうち)、宸翰消息と返書、さらに古記録によりその様子を浮き彫りにすることができる貴重な歴史的遺品である。

秘仏
本尊



重要文化財 千手観音菩薩坐像 経尋作
平安時代・十二世紀 徳島・雲辺寺蔵

四国遍路の難所の一つ、標高九〇〇メートルあまりの山地にある雲辺寺の本尊。像内に書かれた銘文により勤進僧や仏師の名前などがわかる、平安時代後期十二世紀の貴重な作品である。像内に書かれた願文には、さらに目のイラストと「アララカニナシタマヘ」と記され、当時を生きた人の眼病平癒の切実な願いが吐露されており、実に興味深い。



国宝 孔雀明王像
中国・北宋時代・十一～十二世紀 京都・仁和寺蔵

様々な災厄を払う密教修法・孔雀経法を修する際の本尊画像。仁和寺においては、歴代の門跡が鎮護国家など様々な祈りを込めて孔雀経法を修した。大きな孔雀に乗った明王の三面六臂(三つの顔に六つの腕)の姿は、經典には見られない特異な図様。現存作例の乏しい、中国・北宋で制作された仏画としても極めて重要な位置を占める。

宇多法皇像

室町時代・十五世紀 京都・仁和寺蔵



光孝天皇(八三〇―八八七)の遺志を引き継ぎ、仁和寺を創建した宇多天皇(八六七―九三三)の出家後の姿を描く。宇多法皇は仁和寺第一世として、とりわけ深い尊崇の念が奉げられてきた。右手に持つ俱利伽羅龍劍は不動明王を象徴する持物であり、空理・金剛覚という法名を号した法皇が真言密教の行者であることを表わす。



重要文化財 降三世明王立像
平安時代・十一世紀 福井・明通寺蔵

像高が約二五〇センチメートルにもおよぶ、国内でも比類のない降三世明王立像。若狭(福井県)の古刹として名高い明通寺の本堂脇壇に安置されている。密教の尊格である降三世明王は不動明王を中心とする五大明王の一尊。顔は四面、手は八本、髪の毛は逆立った炎の形とする、迫力のある怪異な姿を見せる。

真言宗御室派総本山の仁和寺と、 全国の御室派寺院が誇る寺宝が、一挙、上野へ

みどころ 1

秘仏や本尊を含む

仏像約七〇体が一堂に！

仁和寺創建当時の本尊・国宝「阿弥陀如来坐像
および両脇侍立像」、秘仏・国宝「薬師如来坐像」など仁和寺が誇る仏像に加え、全国の御室派寺院の中から、葛井寺の国宝「千手観音菩薩坐像」、道明寺の国宝「十一面観音菩薩立像」、中山寺の重要文化財「馬頭観音菩薩坐像」、神呪寺の重要文化財「如意輪観音坐像」、雲辺寺の重要文化財「千手観音菩薩坐像」などの普段は公開されていない数多くの「秘仏」、さらに明通寺などの仏像ファン待望の名宝まで、合計約七〇体を一堂に公開します。

みどころ 2

仁和寺所蔵の

国宝「三十帖冊子」、

修理後初の全帖公開！

二〇一四年度に修理が完了した、弘法大師・空海ゆかりの国宝「三十帖冊子」を公開します。さらに、会期中の二週間限定で全帖を一挙公開。書のファンを魅了してやまない空海ゆかりの書を、全帖にわたりご覧いただけます。

みどころ 3

仁和寺の観音堂を

展示室に再現！

江戸時代の仁和寺再興期に再建され、僧侶の修行道場のため一般には非公開の観音堂を、展示室に再現します。実際に安置されている仏像三三体に加え、壁画も高精細画像で再現し、仁和寺の僧侶により守り伝えられてきた観音堂の姿を体感いただけます。本展が観音堂改修工事を記念して開催されることにより実現した、特別な空間となります。

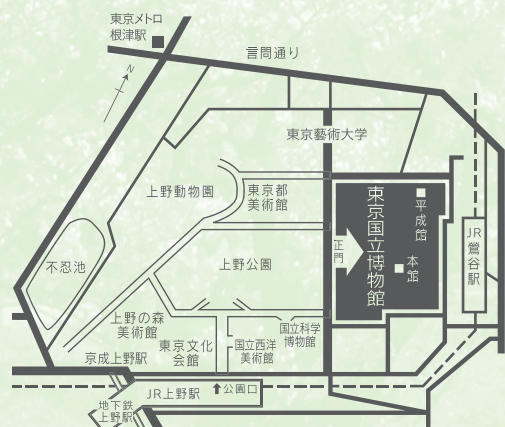


撮影 横山健哉

東京国立博物館 平成館 [上野公園]

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

東京国立博物館ウェブサイト <http://www.tnm.jp/>



JR上野公園口、鶯谷駅南口より徒歩10分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅・東京メトロ千代田線根津駅、
京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

- [会 期] 2018年(平成30年)1月16日(火)～3月11日(日) ※会期中に展示替があります
[会 場] 東京国立博物館 平成館(上野公園)
[開館時間] 午前9時30分～午後5時 *毎週金・土曜日は、午後9時まで *入館は閉館の30分前まで
[休 館 日] 月曜日 *ただし2月12日(月・祝)は開館、2月13日(火)は休館
[主 催] 東京国立博物館、真言宗御室派総本山仁和寺、読売新聞社
[特別協力] 仁和会
[協 力] サビア
[協 賛] 光村印刷
[お問合せ] 03-5777-8600(ハローダイヤル)

[観覧料]	一般	大学生	高校生
当日	1600円	1200円	900円
前売	1400円	1000円	700円
団体	1300円	900円	600円

*中学生以下無料 *団体は20名以上 *障がい者とその介護者1名は無料。(入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。)* 前売券は、2017年11月1日(水)～2018年1月15日(月)まで、東京国立博物館 正門チケット売場(窓口、開館日のみ)、展覧会公式サイトほか、主要プレイガイドにて発売。

報道関係お問合せ

特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」広報事務局(ユース・プランニングセンター内)
〒150-8551 東京都渋谷区渋谷1-3-9 ヒューリック渋谷一丁目ビル3F
TEL:03-3406-3419 FAX:03-3499-0958
E-mail:ninnaji2018@yppcr.com

展覧会公式サイト <http://ninnaji2018.com/>

